



シンポジウム

# セクシュアルマイノリティの被災と支援

## — 東日本大震災時の被災状況と支援課題 —

多くの犠牲者と避難者を出した東日本大震災から2年…。

今回の震災は、設備としての防災のあり方だけでなく、災害時に人権を守るためのさまざまな問題が表面化しました。その中で、セクシュアルマイノリティ（性的少数者）当事者も避難時や避難生活、日常生活の回復など各場面で多くの困難に直面しています。セクシュアルマイノリティ当事者が直面した困難の背景には、社会の中に未だに存在している固定的な性別役割による差別や偏見があります。災害時のセクシュアルマイノリティ当事者の被災状況と支援課題に関するシンポジウムを通して、性別やジェンダーにとらわれない生き方、そして災害時の支援について考えてみませんか。



### 講師・パネリスト

真木 柁鷹 氏（性と人権ネットワーク ESTO 代表）

山下 梓 氏（ゲイジャパンニュース/岩手レインボー・ネットワーク）

小浜 耕治 氏（東北HIVコミュニケーションズ代表）

内田 有美 氏（セクシュアリティと人権を考える会会員）



3月17日(日)

13時30分～

16時30分

会場：エル・ソーラ仙台大研修室(アエルビル 28階)

参加費：無料

申込み：不要(直接会場へお越しください)

問合せ：ageno@mgu.ac.jp(浅野)

主催：(公財) せんだい男女共同参画財団

セクシュアリティと人権を考える会

※ この事業は、東日本大震災女性センターネットワーク募金事業の助成金を受け、実施します。

## \* 講師およびパネリスト紹介 \*

### 真木 柁鷹 氏 (性と人権ネットワーク ESTO 代表)

幼少時より、自覚する性別が“女の子”ではないことに悩みながら“女性”として生きることを模索する。だが20才を過ぎた頃から心理的ストレスが身体ストレスとなって現れ、月経前緊張症などのPMS(月経前症候群)を発症。ピルや漢方薬など、女性ホルモンのバランスを調整する治療をするが症状は悪化をたどる。1997年に埼玉医大の答申で“性同一性障害”を知り、男性ホルモンによる治療を選択。外見が男性化したことからジェンダーを男性に変更し、トランスジェンダーとしての生活をスタート。一般的に知られる性同一性障害と違い、身体の性に対する違和感は弱く、性別適合手術などは希望していない。1998年に発足させたESTOの代表として、“多様な性を生きる人々”のサポートを続けている。

(著作) 真木柁鷹・山田正行編著『トランスジェンダーとして生きる』、2006年、同時代社 刊、ISBN: 978-4886835796、1,200円+税。

(著作) 「性的マイノリティの子どもへの援助: 『ESTO』の活動から(性のアドバイザー講座)」『季刊セクシュアリティ』第17号、“人間と性”教育研究協議会 エイテル研究所 刊。

(取材対応) 針間克己監修・相馬佐江子著『性同一性障害 30人のカミングアウト』双葉社 刊。

### 山下 梓 氏 (ゲイジャパンニュース/岩手レインボー・ネットワーク)

岩手県出身。「国際人権法と性的指向・性別自認」について勉強中。2005年よりゲイジャパンニュースに参加。2011年3月に岩手レインボー・ネットワークをスタート。東日本大震災後、「災害とセクシュアルマイノリティ」(竹信三恵子・赤石千衣子編(2012)『岩波ブックレット 災害支援に女性の視点を!』岩波書店 所収)、「『不可視』から『尊重される』地域へ」(『女も男も一自立・平等— No. 119 2012年春・夏号』労働教育センター 所収)、「災害と女性と『マイノリティ』」(『全大教時報 Vol. 35 No. 5 2011年12月』全国大学高専教職員組合 所収)等のエッセイや講演を通じて、性的マイノリティの視点から見る復興・防災について発信している。2012年12月から国際人権NGOのInternational Lesbian, Gay, Bisexual, Trans and Intersex Association (ILGA) 共同代表代行。

### 小浜 耕治 氏 (東北HIVコミュニケーションズ代表)

1992年からHIVやセクシュアリティに関する活動を始め、93年の東北HIVコミュニケーションズの設立に関わる。2003年から同代表。仙台市エイズ性感染症対策推進協議会委員も務める。04年に男性同性間感染対策のグループ『やろっこ』を立ち上げ、厚生労働省エイズ対策研究事業・男性同性間感染対策とその評価に関する研究協力者として活動。04年にみやぎいのちと人権リソースセンターを設立し共同代表・事務局長に。広く多分野の活動とネットワークを組み、重層的・複合的な人権問題の解決を目指す。

### 内田 有美 氏 (セクシュアリティと人権を考える会会員)

大学在学中から「性同一性しょうがい者と非当事者の共生」に関心を持ち研究を行う。その頃から、セクシュアリティと人権を考える会で活動を行う。2011年より性と人権ネットワーク ESTO 宮城交流会スタッフとして活動を開始。